「おいしいね」が響きあう

鳥取大学附属中学校３年　　川内　凜々

今年の夏休み、子ども食堂へ行ってきた。学校の授業で習ったＳＤＧｓの取り組みに参加しようと考えたからだ。子ども食堂は、ＳＤＧｓの「貧困をなくそう」「飢餓をゼロに」「すべての人に健康と福祉を」を推進する取り組みにあたる。

市のホームページを見ると、すぐに子ども食堂の一覧が出てきた。へえ、こんなにあるんだ。その中で、対象が「赤ちゃんから高齢者まで」と書かれている食堂へ行くことにした。多くの人が集まる子ども食堂ってどんなところだろう。

食堂は昼に開かれているので、夏休みを利用し行ってみた。確かに、赤ちゃんからお母さん、地域の人まで大勢集まっている。大人は四百円だが、高校生までなら無料で食べられる。中学生の私は無料。いただきます！カレーにサラダ。デザートまでついている。

でも、どのようにして成り立っているのだろう。気になって子ども食堂を調べると、助成金制度を利用し運営されていた。助成金とは、国や地方公共団体が事業者などに支給する原則返済不要の支援金のこと。申請をして条件に当てはまれば支給されるそうだ。

今や日本の子どもの七人に一人が貧困状態といわれる。子ども食堂を支える助成金は、まさに命の源。物価高騰などによる家計の圧迫で子どもを取り巻く環境が厳しさを増す中、子ども食堂の存続は必須だ。

授業で習った。みんなの暮らしを支えるために税金が使われていると。助成金もその一つ。みんなの善意が、この食堂に詰まっている。誰一人取り残さない。ＳＤＧｓの理念。そして一人ひとりの笑顔のために。

子育ての話で盛り上がるお母さん、お父さんの横で、多くの人に見守られ笑う赤ちゃん。その光景をにこやかに見つめるご年配の方々。「おいしいね」のハーモニーが部屋全体に響き渡っていた。

子ども食堂のスタッフさんへ「ごちそうさまでした！」お礼を言うと、「きれいに食べてくれてありがとう」やさしい笑顔の女性が答えてくれた。「私も子どものころ、辛い時期があったから。悲しい思いをする人がいない地域にしたいと願って」その笑顔もまた、食堂全体を包み込んでいた。

税金の使い道が、こんなにも温もりであふれていたなんて。税金を納めることが誇らしかった。みんなの税金が、知らない誰かを助けている。税金を納めてくれる方へ感謝の気持ちがわいてきた。

子ども食堂へ行ってみたら、そこは思いやりの気持ちで満たされていた。助成金で多くの人が救われる。尊い税金の使われ方だ。

みんなに豊かな食卓を。多くの人に温かい食事が届きますように。

今日も子ども食堂には、「おいしいね」が響きあう。